



梅雨の季節に備えましょう！

6月は土砂災害防止月間、6月1日～7日はがけ崩れ防災週間です

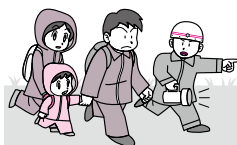
問 総務課(☎826-1111 内線2292)

風水害

気象情報の確実性の向上と情報量の大幅な増加により、台風や大雨などの到来時間や、規模などの情報を早期に知ることができるようになりました。また、河川の改修も進み、現在では風水害による被害は以前と比べて減少しました。しかし、異常気象などにより予測以上の被害を受けることがあります。日頃から自分の家の環境を確認し、水害に注意しましょう。

日頃から注意する点

- 道路の側溝がつまっていないか
- テレビやラジオの気象情報
- 家の地盤が道路より低くないか
- 周囲に危険な川はないか



早めの避難を心がけましょう

台風や集中豪雨による浸水は、一気に押し寄せてきます。避難の遅れは生命の危険に直結します。避難勧告・避難指示が出たときはもちろんですが、それらが出てなくても危険を感じたら、自ら早めに行動することが大切です。

※避難勧告…災害が発生する危険があるときに避難を促すものです。

※避難指示…より災害発生の危険性が高まったときに避難させるために出されるものです。

現在の土浦は、河川改修が進み堤防の決壊などの心配はほとんどありませんが、万が一決壊が起こったときには、霞ヶ浦に隣接する中心市街地などの低地は甚大な被害をこうむる可能性があります。

自分の住んでいる地域の避難所を下記の表で確認しておきましょう。

洪水時の避難所 ※1か所の避難所に集中しないため区域を設けています。対象区域外の方も避難所に避難できます。

避難所	所在地	電話	避難対象区域
霞ヶ浦環境科学センター	沖宿町1853	828-0960	
上大津東小学校	沖宿町2489	828-1018	沖宿町、田村町、手野町
湖畔荘	手野町1892-1	828-0881	
上大津西小学校	手野町3651	828-1016	木田余、真鍋新町
ワークヒル土浦	木田余東台四丁目1-1	826-2622	
二中地区公民館	木田余1675	824-3588	城北町、真鍋一丁目
土浦第二中学校	東真鍋町21-7	821-0808	港町一～三丁目、有明町、桜町一・二丁目、大和町
真鍋小学校	真鍋四丁目3-1	821-0752	桜町三・四丁目、大町、千束町、生田町、大手町
土浦第一高等学校	真鍋四丁目4-2	822-0137	川口一・二丁目、湖北一・二丁目、東崎町
土浦工業高等学校	真鍋六丁目11-20	821-1953	中央一・二丁目、文京町
都和小学校	並木五丁目4826-1	831-1510	
都和公民館	並木五丁目4824-1	832-1667	殿里、真鍋二・三丁目、西真鍋町、東真鍋町、虫掛、常名
都和南小学校	常名3090	823-8251	立田町、田中一～三丁目、田中町
土浦第三高等学校	大岩田1599	821-1605	大岩田
土浦日本大学高等学校	小松ヶ丘町4-46	822-3382	蓮河原町、蓮河原新町、滝田一・二丁目、小松一・二丁目、富士崎一・二丁目
土浦保健センター	下高津二丁目7-27	826-3471	
四中地区公民館	国分町11-5	824-9330	小松一・二丁目、富士崎一・二丁目
土浦第四中学校	中高津三丁目10-4	821-0297	下高津一～四丁目、上高津
下高津小学校	下高津四丁目2-9	821-1100	穴塚、矢作、飯田、佐野子、粕毛
藤沢小学校	藤沢3057	862-3505	
新治地区公民館	藤沢990	862-2673	藤沢、藤沢新田、上坂田、下坂田、高岡、田土部

がけ崩れ・地すべり

こんなときは要注意

がけ崩れ・地すべりなどの土砂災害は、長雨、大雨、豪雨により発生します。予測が難しいため、被害が大きいのも特徴です。しかし、「前ぶれ」もありますので、がけ地や傾斜地では注意深く様子を見て、早めに避難することが大切です。

- がけから小石がパラパラと落ちる
- がけに裂け目ができる
- がけから濁った水がわき出てくる

がけ崩れが起こるわけ

- ①雨で土中の水分が増えると土の重さが増して、土の抵抗力が減ります。一方、水圧は高くなります。
- ②「風力」が樹木から地盤に伝わり、振動で地盤がすべり出す力を増します。
- ③この結果、高さ5メートル以上、勾配30度以上のがけ地では、がけ崩れが起こりやすくなります。

がけ崩れの起こりやすい場所



竜巻

竜巻は、台風、寒冷前線、低気圧などに伴って突発的に発生する激しい渦巻で、強風を伴い進路に当たる物体を巻き上げながら移動します。また、非常にスピードが早く、短時間で大きな被害をもたらします。

竜巻注意情報が発表されたら

「今、まさに竜巻が発生しやすい気象状況になっている」とき、気象庁から竜巻注意情報が発表されます。市では、市ホームページ、安心・安全情報メール、ツイッターなどで、市民の皆さんに竜巻への注意を呼びかけます。

安心・安全情報メールの受信を希望される方は、市

ホームページや右の二次元バーコードから登録できます。

竜巻が間近に迫ったら

- ◆屋内では
 - 建物の1階の部屋に移動する
 - 雨戸やシャッターを閉めて窓から離れる
 - 丈夫な机の下に入り、頭を守る
- ◆屋外では
 - 頑丈な建物の中に避難する
 - 建物がないうときは、電柱や大きな木から離れる
 - 姿勢を低くし、飛来物から頭を守る

安心・安全情報メール



避難時の心得

■安全な避難路の確認

避難所までの経路をあらかじめ決めておき、安全に通行できるか確認しておきましょう。



■非常持出袋の準備

避難するときの荷物は必要最低限とし、事前に準備しておきます。両手が使えないようにリュックに入れておきましょう。



■一人暮らしのお年寄りなどに気配りを

自分の家族や住まいだけでなく、地域全体にも目を向けましょう。特に、一人暮らしのお年寄りや病気の人は、ふだんからの気配りが必要です。



■速やかに避難を

避難勧告などは、危険がせまったときに出示されますので、速やかに避難しましょう。避難の際には、警察などの指示に従いましょう。

■避難の呼びかけに注意

危険が迫ったときには、市や消防団などから避難の呼びかけがありますので、速やかに避難してください。



■動きやすい格好、2人以上での避難

動きやすい格好で、2人以上で避難しましょう。裸足・長靴は禁物。ひもで締められる運動靴で。

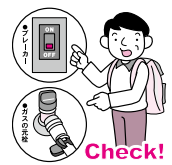
■堤防に車を放置しない

水防活動の妨げになりますので、車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。



■避難する前に

避難する前に、電気・ガスなどの火元を消し、確認しましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。



■車での避難は控えて

車での避難は、緊急車両の妨げになります。また、渋滞をまねき、浸水すると動けなくなり、特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。



■高い道路を通りましょう

避難にはできるだけ高い道路を選び、浸水箇所があった場合は、溝や水路に注意しましょう。また、がけ地などでは土砂災害に注意しましょう。

